

学年通信

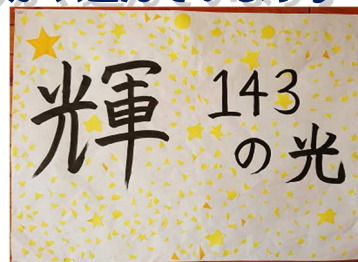
『なかま』

四日市市立三滝中学校
第2学年 第16号
2021.10.27.

合唱コンクールに向けての取り組みが、進んでいます♪

ホールには、学年目標の『輝(てる)』が掲げられ、三滝祭での合唱コンクールに向けた取り組みが進んでいます。

コロナ禍での取り組み。昨年度よりも密をできる限り避けるために教室を分けながら練習に取り組んでいます。歌う機会(練習できる時間)の確保がなかなか難しい中、第1回のリハーサルを終えました。まだまだ、伸びしろたっぷりの状況。これからの取り組みの中で、たくさん話をして、本番での素晴らしい歌声を楽しみにしていますよ♪



人権学習「部落問題学習①②」

前回の通信でもお知らせしましたが、2年生の人権学習、部落問題学習のテーマは、『反差別の生き方に学ぶ』です。まずは「河原者」と呼ばれた人々の生活から、当時の時代背景や、そこから差別が生まれていったこと。ただその中で、差別する人ばかりではなかったことも含めて、映像資料も見ながら考えました。一部ですが、感想を紹介します。

- 生まれたところでのケガレや差別があったけど、今では見た目で判断し、偏見があることで差別が起こっていることもある。社会で悲しいと思う人が少なくなるように、もっと一人ひとりが差別について考えて、関わるのが大切だと思った。

- 平安時代のケガレと似ていると感じました。そしてケガレと呼ばれている人たちはすごいことをしているのに、どうして差別するのかと悲しくなりました。現代でも似たような差別があり、「あの人と関わりたくないな…」から差別につながっていくと今ハッキリわかりました。私は「差別をせずに平等に接する人になりたい」というのが本音ですが、なかなか難しいので、まずは人のことを悪く言わないように心がけようと思った。
- 差別される人もどこで生まれるか自分で決められるわけじゃないのに、その人を仕事や生まれで差別するのは絶対にやってはいけないことだと思いました。人を、この人はこうだからと決めつけることはしてはいけないと思いました。差別・排除する社会・その人の心が悲しいというのに深く共感しました。

- 『河原者』って周りが言っているが、周麟(僧侶)、足利義政(将軍)は差別をしなかった。高い技術をもっていて、なのに周りはなぜそのような人が河原者と差別をされないといけないのか。周りは感謝の気持ちが一つもなかったのではないかなと思う。
- 業績を認めた人たちは、差別をするのはよくないと思ってとめたかったんだと思う。差別されていた人は、今まで苦しかったと思うが、自分たちを認めてくれる人がいるとわかって安心すると同時にうれしかったと思う。自分もいろいろな人のいいところを認めていきたい。
- 差別をされる方も差別してくる人を恨んだりするのではなく、心を優しく真剣に生きている又四郎の生き方がとてもすごいと思いました。また周りの人がその人たちの心に寄り添うことが、差別をしている人に影響を与える、差別がいつかなくなるきっかけになるのではないかなと思いました。自分で正しい答えをみんなに伝えるその勇気がすごくて、見習わないといけないなと思いました。
- 周麟や足利義政は、たくさんの人に又四郎や善阿弥の凄さを知ってもらって差別をやめてほしいと思っていたのではないかなと思いました。
- 他の僧侶や将軍は差別されていた人を見て、何か対処をしようとしなかったのだろうか。
- 今たくさんの人に差別されたり排除されたりしたとしても、彼らのことを人間らしいと思うし、いずれ沢山のの人にわかって認めてもらえると思っていたと思う。
- 庭石に名前を彫った人は、差別されている人の存在を知ってもらい、同じつらい思いをする人が減ってほしいという願いがあったのかなと思った。
- 足利義政は多くの河原者を、信頼していたと思った。
- どんなにつらくて嫌でも、歴史に残る素晴らしい庭を作って喜んでもらいたい。頑張っているから自分も頑張らないとと勇気をもらっていた。
- 河原者と呼ばれた人たちが、今の日本の文化を作っていき、教訓を残してくれていることが分かった。
- 同じ人間で、一緒にいても大丈夫だということを知ってほしいと思った。なぜ何も知らないのに、決めつけで差別をしたのかすごく聞いていて悲しかった。
- 周りに流されずに、その人のことを認められるようにになりたいと思った。
- 差別するのではなく、お互いの能力などを認め合うことが大切だと思いました。